

参考資料 1 第1回検討部会の議論まとめ（大切にしたい考え方）

※レイアウトについては現在検討中であり、今後変更となる場合があります。

スポーツ施設・グラウンド

- ・ 地域で子どもたちを育てたいという思い
 - ・ 点在するスポーツ施設を一つに拠点化することは大切
 - ・ 部活動の地域移行
 - ・ 高専との連携は非常に重要
 - ・ 野洲川河川公園との複合的な視点

どんぐり広場・森林ゾーン

- ・ 豊かな自然を守ってほしい、維持したいという思い
- ・ 自然にふれ合う機会が少ない中で貴重な場
 - ・ 遊具よりも、子どもたちが自分で考えながら遊べるのが大事
 - ・ 高木があり木陰がある涼しい森
 - ・ 昆虫や動物に出会いながら探検できる森

ハード

- ・ 安心・安全に過ごせる
- ・ 活動に利用しやすい設備が整う
- ・ バリアフリー等の福祉の視点
- ・ 夏の暑さ対策
- ・ 屋根下に何人滞在できる、トイレが十分にある、照明がある
- ・ どの季節も行きたくなる魅力を

情報発信

- ・ 情報集約できる広報の仕組み
- ・ さらなる市民への周知・普及

全体について

- ・ 持続可能で未来へつなげること
- ・ 今の視点だけでなく、子どもや孫の世代にとってどんな場所になっているかという未来に向けた視点を
- ・ 心地よさを感じ、住みたいと思えるまちの魅力に
 - ・ 集客が見込めるかどうか
 - ・ 地域で活動している団体が集まり、市民が自然と集まる場
 - ・ 独自性・新規性・斬新さが重要

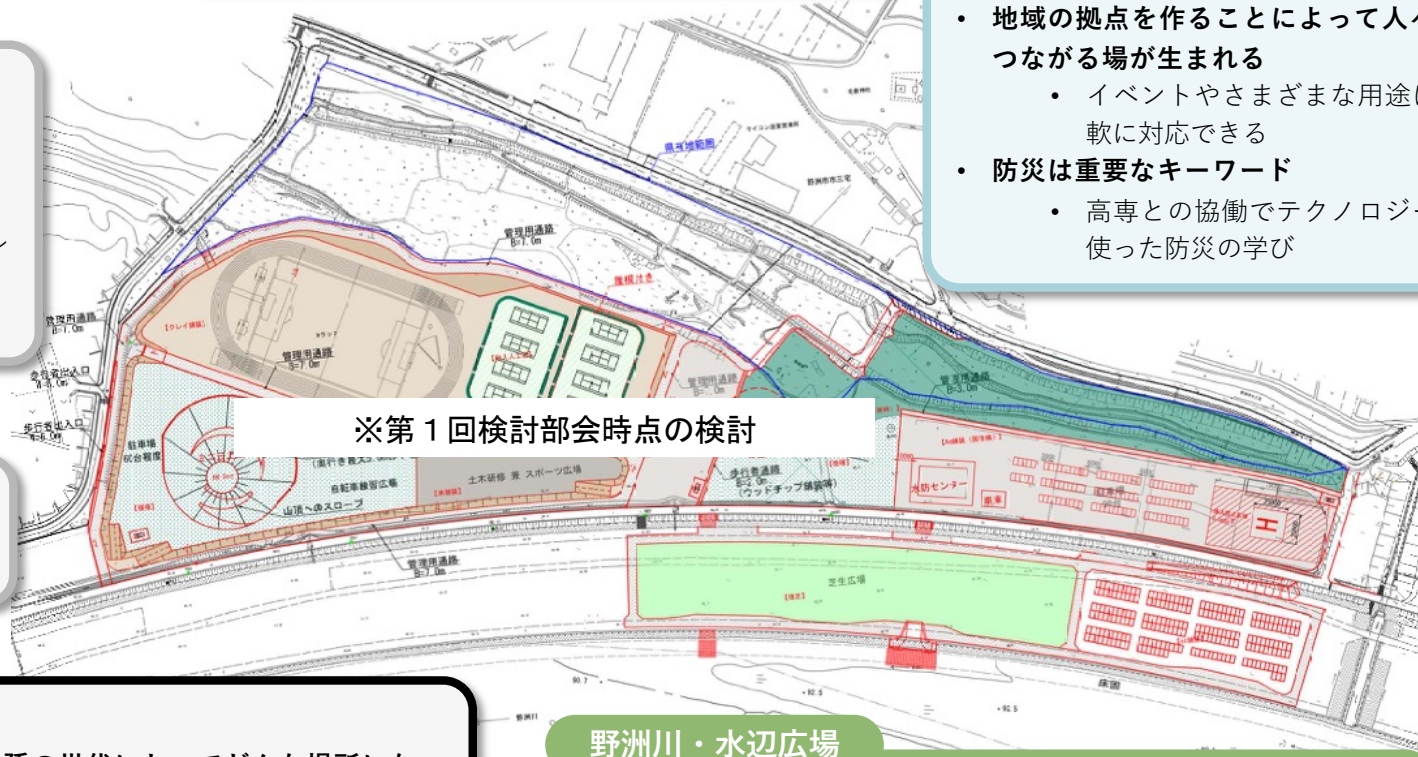
水防センター（建物）

- ・ 地域の拠点を作ることによって人々がつながる場が生まれる
 - ・ イベントやさまざまな用途に柔軟に対応できる
- ・ 防災は重要なキーワード
 - ・ 高専との協働でテクノロジーを使った防災の学び

※第1回検討部会時点の検討

野洲川・水辺広場

- ・ 森、広場、水辺がつながり身近な自然にふれ合える
- ・ 川の怖さと楽しさを両方学べる
- ・ 危険を回避するだけでなく、体験を通じて身をもって学ぶ
 - ・ 河川環境の面白さを活かした学びのプログラムがある
 - ・ コンクリートでなく自然を感じられる魚道に



参考資料 2 第2回検討部会の議論の振り返り（想定される利用の仕方・アイデア）

※レイアウトについては現在検討中であり、今後変更となる場合があります。

水防センター（建物）

- ・ 企業やセンター職員が市民への防災教育
- ・ 高専生が小中学生にプログラミングを教える、ドローンを使用
- ・ 様々な人が講座やワークショップ、フリーマーケット、活動場所、練習場所などに使う
- ・ 防災教育（テント設営・非常食体験・災害体験・歴史学習）
- ・ 最新テクノロジー体験ができる、3Dプリンターを常備
- ・ 備品レンタル事業

どんぐり広場・森林ゾーン

- ・ 自然インストラクターが、こども自然体験プログラム
- ・ NPO、企業等が、小中学生と動植物の生態・環境調査
- ・ 自然保全団体が、中高生に森や河辺の整備体験
- ・ やす緑のひろばと子育てサークルが、親子で森の観察会
- ・ こども主体で遊べる場所に

その他

- ・ 井戸水の活用、自己処理型水洗トイレなどサステイナブルな設備
- ・ 緊急気象情報の表示
- ・ 撮影（ロケーション）利用
- ・ 自動運転やAIなどスマートシティの実現

スポーツ施設・グラウンド

- ・ 60組程度の3on3大会
- ・ いろいろな世代が楽しめる市民向けのスポーツ大会（鬼ごっこ、モルック）
- ・ 50～100人規模のスポーツ大会（サッカー、テニス、スケートボード、バレー、バスケ、BMX、ドッジボール、ゴルフなど）
- ・ 防災体験
- ・ 土木研修など
- ・ 10万人規模の音楽フェス
- ・ 様々な競技教室（サッカー、バスケ、テニス、バレー、ラグビー、陸上、ゴルフ、パルクールなど）
- ・ 健康づくり（リハビリ、トレーニング、ヨガ、ノルディックウォーキング）
- ・ ペットも一緒に楽しめる（ドッグラン、ドッグヨガなど）
- ・ 学校の体育祭利用

※第2回検討部会時点の検討

ミニ三上山

- ・ 芝すべり
- ・ レクリエーション
- ・ 星空体験、キャンプなど

野洲川・水辺

- ・ 防災（水の中で歩く体験など）
- ・ 水上安全講習（ライフジャケットの着用など）

広場

- ・ 夏祭り：年に1回
- ・ 3万人規模の花火大会
- ・ マルシェ：年に4回
- ・ 様々な〇〇市場、〇〇まつり、〇〇大会
- ・ 自然観察、キャンプ体験
- ・ トレーニング機器や遊具の設置

参考資料3 グループ会議でいただいた運営・利活用に関わるご意見

全体的なこと

- ・ HP上で予約状況がわかるようになっていれば大会や教室の告知にもなる。
- ・ 他の事例を見てみると、情報発信が非常に重要だと感じた。ナチュラルに施設の魅力を伝えられれば。
- ・ 難しいが、賑わいとマナーを両立できたら。
- ・ 子どもたちがのびのびと安心して楽しく遊べる場所にする一方、排除的なルールにならないようにしたい。
- ・ 車両の導線の利便性と、歩行者の安全性を両立できたら。平常時と、大規模イベント時でそれぞれどのような運用にするか。
- ・ 「野洲こども議会」など子どもの意見も踏まえた運営や利活用を検討したい。
- ・ ランニング費用もきちんと考えて、子どもたちが借金を背負うような施設にはならないように検討いただきたい。

1. 水防センター

- ・ 野洲で活動する団体が集まることで、なにかやってみたい人と実行できる団体がつながりやすくなる。
- ・ 自然・子ども・スポーツ・観光など、普段は別々で活動している様々な団体が連携できて活動の核になれば。
- ・ 活動室・会議室が、オープンなスペースで気軽に交流できる。ある程度クローズなコワーキングスペースの様な形式の方が話しやすい場合もある。
- ・ 気軽に相談できて、団体等につないでくれる人（コーディネーター）が必要。
- ・ 最新設備はいずれ古くなるが、例えば毎月企業が発表できる場があるなど、ソフト面で最新のテクノロジーに触れることができるとよい。

2. 水辺と森の学びエリア

- ・ 緑陰も活かした滞在しやすいような空間づくりが必要
- ・ 川辺がひらけることで、学校や家庭への安全指導周知も必要になってくる。
- ・ 「野洲こども議会」では野洲の良いところは自然があるところ、自然を守りたいという意見が出ている。

3. 全天候型アーバンスポーツエリア

- ・ 持続可能な施設運営のためには有料にする方がよいと思うが、有料であれば子どもたちが自由に遊びにきにくくなるという面もある。（教室利用は有料、自由利用は無料にするというやり方はいかがか。）
- ・ アーバンスポーツだけでなく、高齢者や子どももできるニュースポーツ、ストレッチなどができればよい。
- ・ ほほえみYASUクラブとしては、レクリエーション用具の貸し出しを現在も行っている。受益者負担で用具のレンタル料を取るのはいかがか。
- ・ 屋根があるので、マーチングの練習等にも使っていただけるのではないか。
- ・ 土日にイベント利用（マルシェ等）があるとアーバンスポーツで使えない。その辺りの利活用のバランス調整も検討が必要である。

4. スポーツ・賑わい・グラウンドエリア

- ・ 制限が厳しいのでスペックが高い整備はできないが、実際に利用し始めてから再検討するなど柔軟に考えるのがよいのではないか。日本サッカー協会でも天然芝に対して補助金がでる。

5. 緑と土の体験学習エリア

- ・ ミニ三上山も眺めがいい眺望施設としての役割だけでなく、学びにつながる活用を見据えて整備をするべき。